平成 26 年度淀川河川公園上流域地域協議会
平成 27 年 2 月 18 日
資料2

三川合流域拠点施設の検討状況について

・三川合流域拠点施設検討委員会　設立趣意書

・三川合流域拠点施設検討委員会　委員名簿

・三川合流域拠点施設検討委員会資料（計画概要、施設整備、景観検討）

平成26年度第1回三川合流域拠点施設検討委員会
平成 26 年 11 月 12 日
資料ー２

三川合流域拠点施設検討委員会

設立趣意書

三川合流域は、京都府南部の淀川（宇治川）・木津川・桂川が合流する地点に位置し、その周辺には「石清水八幡宮」「大山崎山荘美術館」「流れ橋」などの歴史文化資源や「淀川河川公園背割堤地区」などの自然レクリエーション資源があり、周辺の住民はもとより各地から訪れる観光客にも親しまれています。

他方で本地域は京滋バイパス等が整備された広域基幹交通の結節点となり、地域のポテンシャルが大きく向上していますが、開発圧力の高まりに対して環境の保全との調和がとれた地域づくりが課題となっています。

このため、近畿地方整備局と周辺自治体により平成１９年に『淀川三川合流域地域づくり構想』が策定され、多様な主体や世代が、三川合流域の豊かな自然環境や歴史文化にふれあい、交流することで「川とまち」「川とひと」とつなぐ地域間交流の拠点となる施設として「三川合流域拠点施設」の整備が位置づけられています。周囲の自然環境との調和や地域の歴史性に配慮したデザインを取り入れ、地域間交流の中核となる施設の設計が必要となります。

本委員会では拠点施設の整備にあたり、景観との調和・観光等への利活用について、学識経験者や地域の関係者から助言をいただくために設立するものです。

平成 26 年度第 1 回三川合流域拠点施設検討委員会
平成 26 年 11 月 12 日
資料－１

三川合流域拠点施設検討委員会　出席者名簿

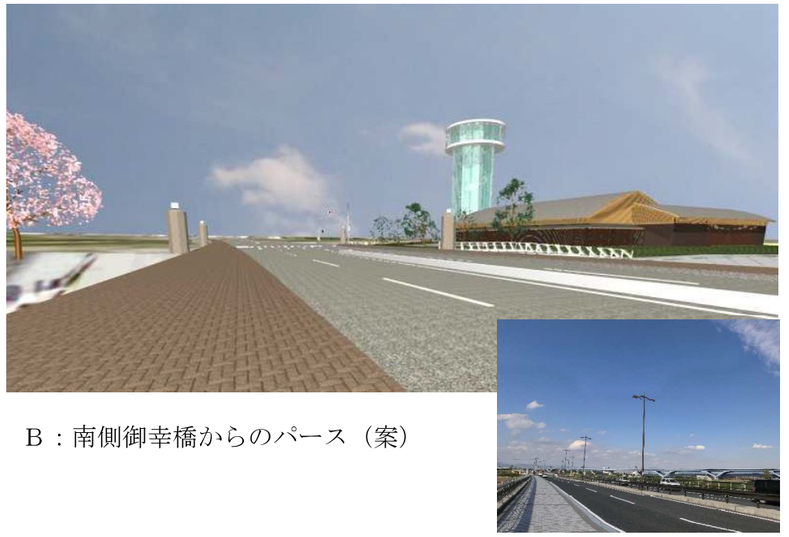
氏　名	専　門	所　属	備　考
荒川　朱美	有識者	京都造形芸術大学教授 （京都府都市計画審議会委員）	
金田　章裕	有識者	京都大学名誉教授 （京都府景観審議会会長）	
宗田　好史	有識者	京都府立大学教授 （淀川河川公園上流域地域協議会副会長）	
西脇　居則	地元関係者	八幡市観光協会専務理事	
丹下　　均	地元関係者	八幡市副市長	
上田　英俊	地元関係者	大山崎ふるさとガイドの会会長	
田村　　聡	地元関係者	大山崎町環境事業部長	
大宮　竹志	地元関係者	久御山町郷土史会事務局長	
田中 悠紀彦	地元関係者	久御山町副町長	
小林　暢彦	行政	京都府建設交通部都市計画課長	
田井中 靖久	行政	淀川河川事務所長	

交流の玄関口となる景観の形成

- 視認性の良いシンボリックな展望塔により交流施設へ利用者を導く。
- 広場は背割り堤の軸線に位置し、男山、天王山などの周辺景観も見渡せ、イベント広場としても活用出来る空間とした。
- 施設は周辺景観の稜線にとけ込む勾配屋根とし、“背割堤”軸線上の管理棟は“平入り”の正面性を意識した意匠形態とした。
- 駐車場から管理棟エントランスを抜けて広場に出た先に“背割堤”の桜並木が視界に広がる演出としている。

施設鳥瞰パース（案）

A：背割堤公園入り口からのパース（案）



B：南側御幸橋からのパース（案）

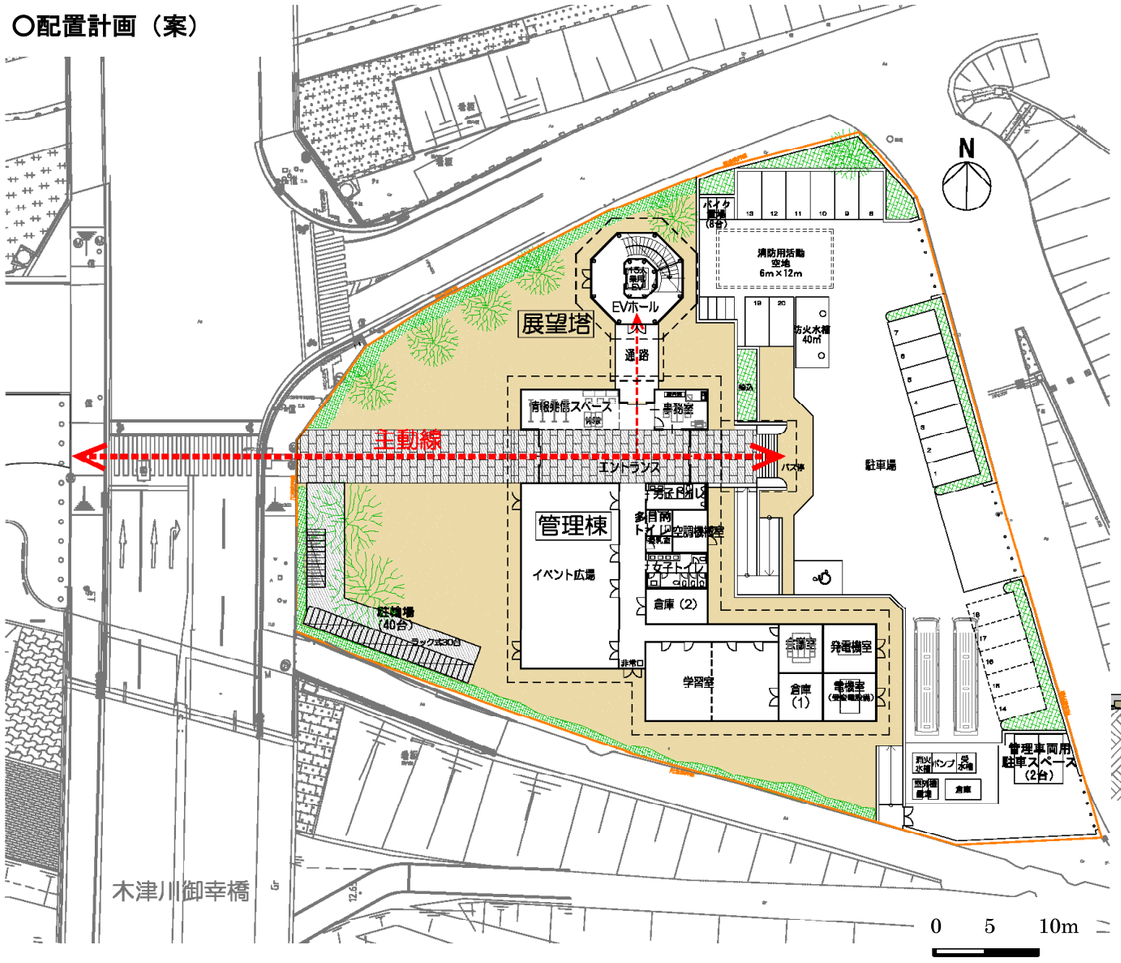
○計画概要（案）

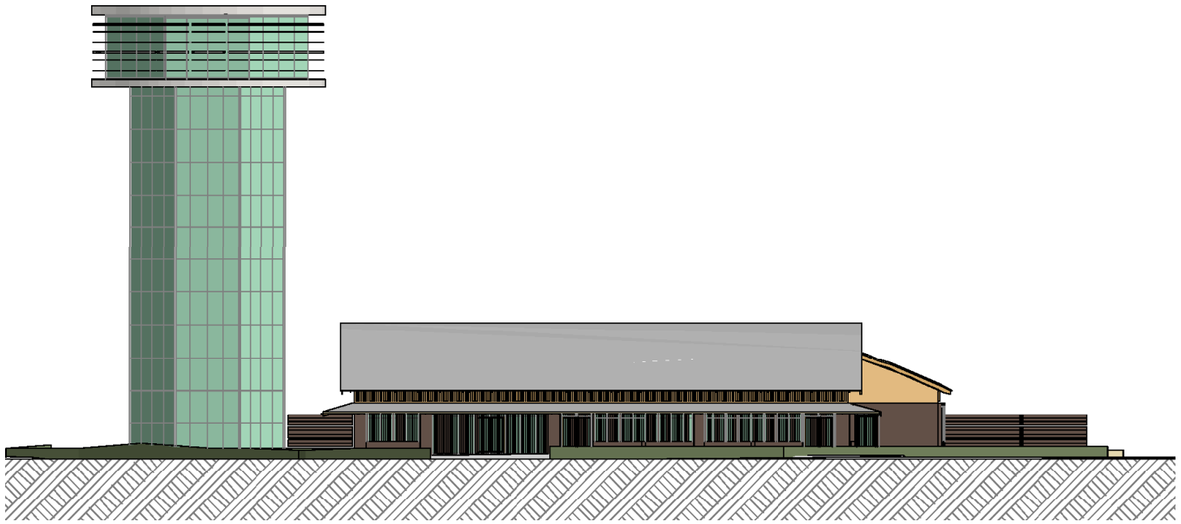
三川合流域拠点施設（仮称）　　整備工程計画

	Ｈ２６年度	Ｈ２７年度	Ｈ２８年度	備考
設計	━━━			
工事		━━━	━━━	工事契約手続き期間、工事施工期間、検査期間等含む
	▲	▲		委員会開催予定

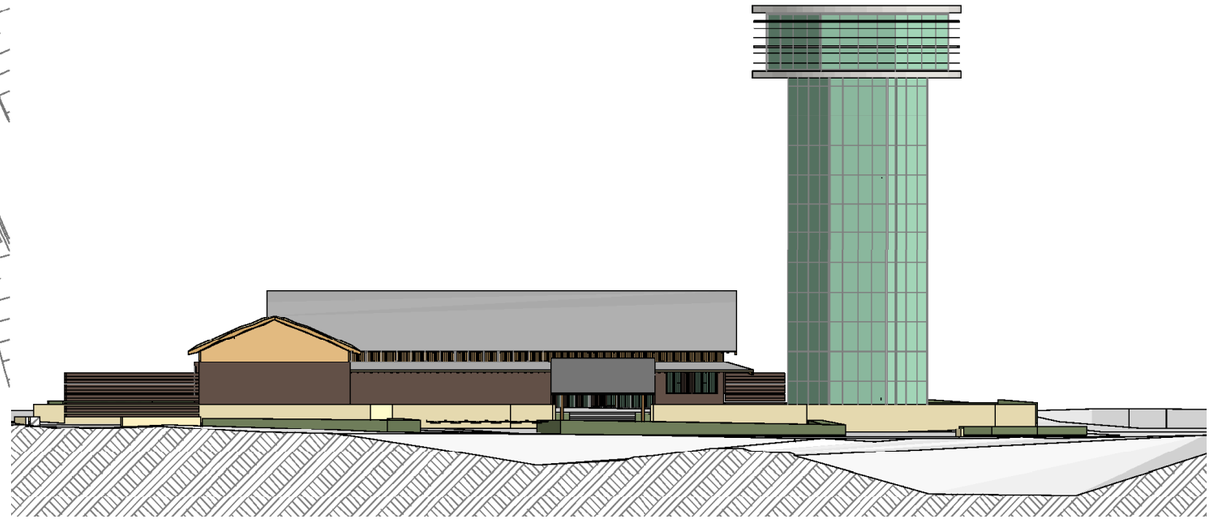
規模・構造	管理棟　（　建築面積：757 ㎡　延床面積：757 ㎡　木造　平屋建て） 展望塔　（　建築面積：75 ㎡　延床面積：150 ㎡　鉄骨造　高さ約２９m） 駐輪場　（　48 台収容　（自転車 40 台、バイク８台）　） 駐車場　（　普通車 20 台、身障者用１台、バス転回、駐車可能） 【管理棟と展望塔は防犯対策及び繁忙期の展望塔への警備のため壁を設置し接続する事で一体的な運用を行う】

○配置計画（案）





西側立面図



東側立面図

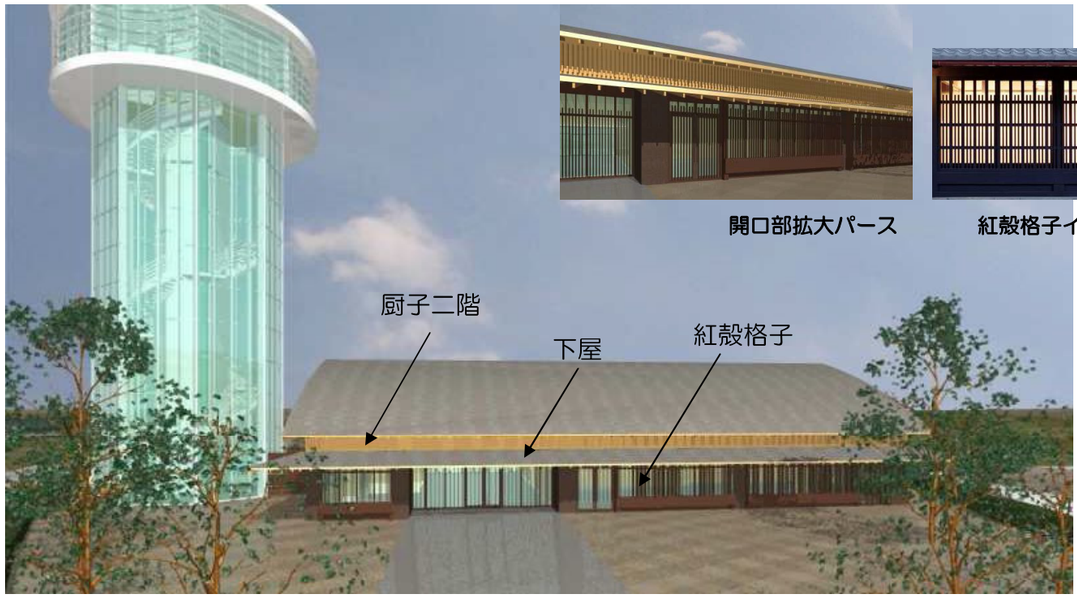
■敷地周囲には植栽（生垣）を設け道路との境界を緑の潤いのある落ち着いた雰囲気の空間とする。

平成 26 年度第 1 回三川合流域拠点施設検討委員会
平成 26 年 11 月 12 日
資料－６－４

歴 史 周 遊 に 係 わ る 景 観 の 形 成

- 歴史街道などの取り組みと調和した、歴史を感じさせるデザインとする。
- 管理棟は、東高野、西国、京街道等の歴史的旧街道筋に残る伝統的な「町家造り」を意匠形態の基本とした。
- 「町家造り」として、屋根は“むくり”を持たせた瓦の切妻とし、自然景観の中に優しく暖かみを感じる形態とした。
- 軒先側を玄関とする“平入り”形式とし、雁行する平面形態の軒先を揃え、建物四方の意匠を整えた。
- 計画建物は平屋建てであるが、壁面の質量感を抑えることの目的と、壁面の陰影による建物全体の質量緩衝として“下屋（げや）”を設け、“厨子二階（つしにかい）”の意匠形態とした。
- 建物正面は内部の独立と外部への開放など、機能性を有した町家造り様式の“紅殻格子（べんがらこうし）”をモチーフとした外壁とした。
- 展望塔は、八幡市の歴史的建築物「八角院」をモチーフとした八角円堂の平面形態としたが、御幸橋の親柱は六角形となってる。
- 周辺眺望からのシンボル性と景観形成を考慮し、透明感のある全面ガラスの壁面とした。
- ノスタルジックな管理棟とモダンな展望塔による新旧融合の意匠形態とすることで、幅広い世代に受け入れられる建築を目指した。

（用語の解説）
- むくり　：屋根の流れが直線ではなく、やや凸状にまるみのある屋根
- 平入り　：建物の出入口が軒先側にある形式
- 下屋　　：下に取り付けられた屋根
- 紅殻格子：紅殻色に塗られた格子
- 厨子二階：２階の天井を低くした外観

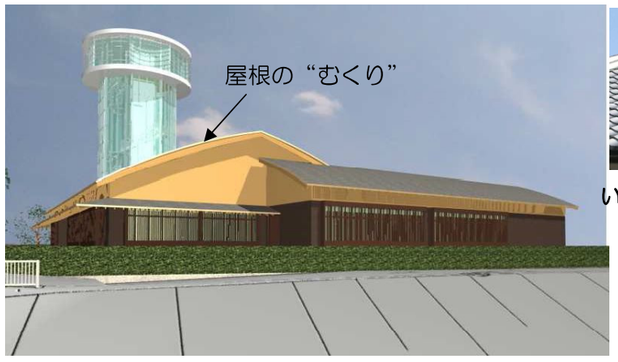


開口部拡大パース

紅殻格子イメージ

施設西側パース（案）

施設東側パース（案）



施設南側パース（案）

いぶし瓦屋根イメージ

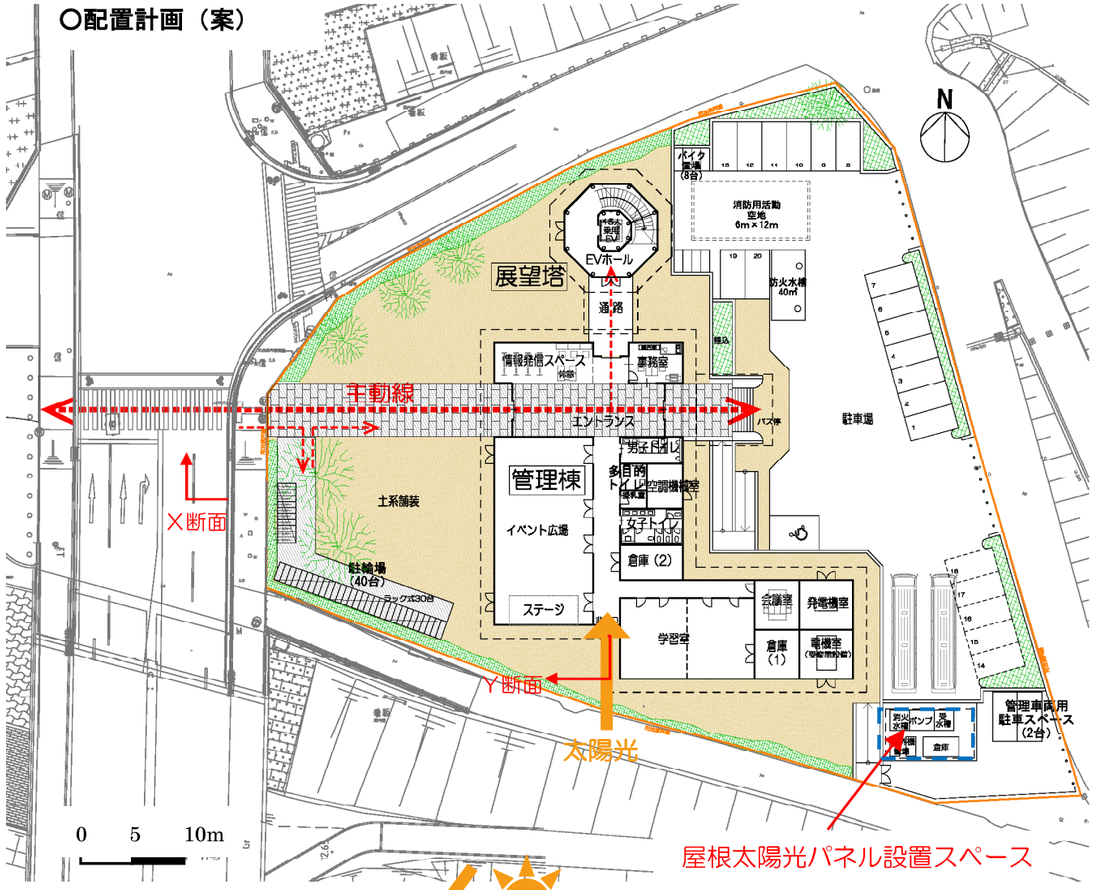
歴史街道沿いの修景写真

・景観と調和した施設整備について（修正案）

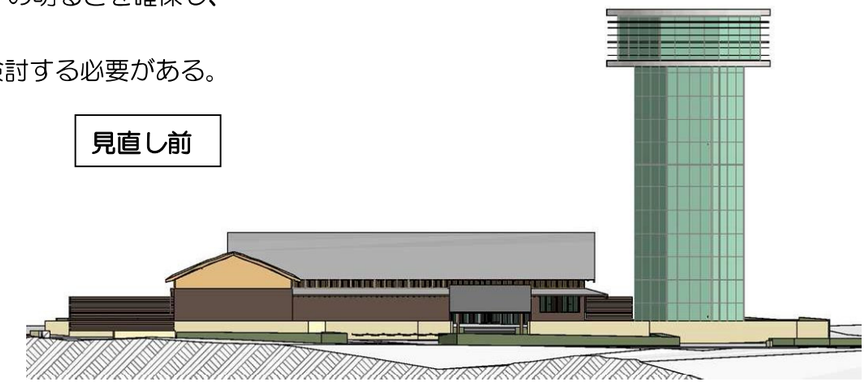
■施設を安心して利用するため自然エネルギーを活用し、心地良い空間を作る

- 太陽光パネルを設置し、発電量の表示も行いながら環境建築をアピールする。
- 廊下には太陽光発電を電力源とした照明器具や南側の非常口窓の日射しを取り込むことにより廊下の明るさを確保し、イベント等が開催されていない時でも安心して便所などの施設を利用できるようにする。
  なお、屋根面にガラス製瓦を使用し日射しを取り込むことも出来るが、景観及び維持管理面から検討する必要がある。
- 妻壁上部に換気口を設け、自然換気を効果的に促す。

○配置計画（案）

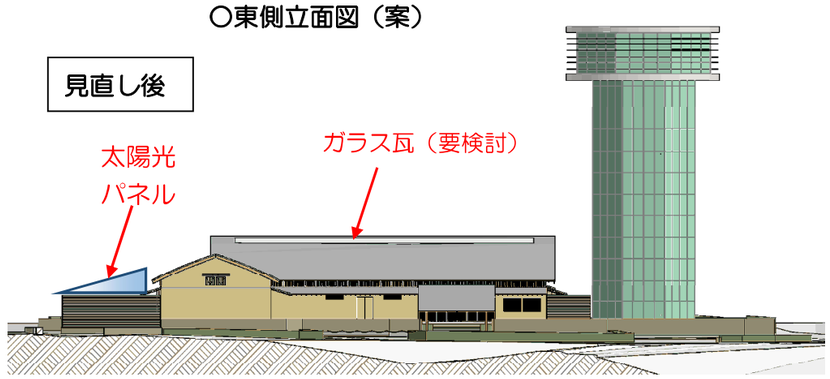


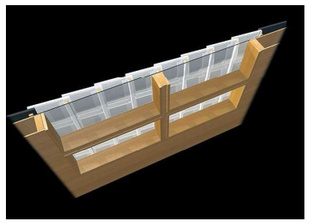
見直し前



○東側立面図（案）

見直し後



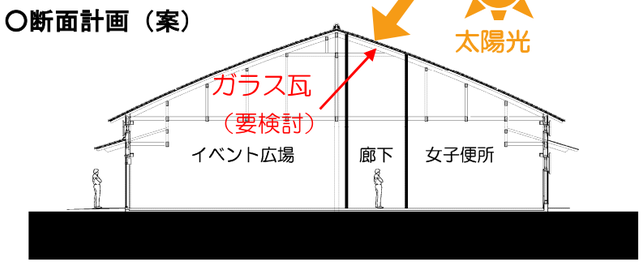


ガラス瓦の参考例

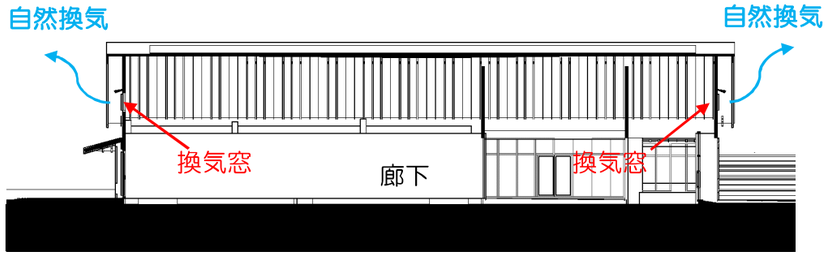
出典：画像提供 旭硝子（株）

ガラス瓦の設置イメージ

○断面計画（案）



X断面イメージ（案）



Y断面イメージ（案）

換気窓の設置イメージ

■全視点からのイメージパース

西側パース（案）

東側パース（案）

南西側パース（案）

北西側パース（案）

北東側パース（案）

南側パース（案）

サイクリング・散策・舟運等に係わる沿川景観の形成

・船、御幸橋、京滋バイパスを通る自動車や歩行者及び京阪電車からの視点を踏まえたデザインの実施
・交流施設建物は、地上部の歩行者・自転車・車、河川利用者及び高架道路通行車両（京滋バイパス、国道４７８号）及び京阪電車などの景観に対し、各方面からの視界を意識した意匠形態とした。

①　：御幸橋（南側）からの景観（フォトモンタージュ写真）

③：京滋バイパスからの景観（フォトモンタージュ写真）

④：京阪電車からの景観（フォトモンタージュ写真）

②：御幸橋（北側）からの景観（フォトモンタージュ写真）

景観シミュレーション位置図

平成 26 年度第１回三川合流域拠点施設検討委員会
平成 26 年 11 月 12 日
資料－６－６

特 徴 あ る 眺 望 景 観 の 形 成

○眺望景観の保全
・男山、天王山からの眺望に対し、景観と調和する建物ボリュームとデザインの実施
・規模も小さく、景観への影響は少ない
・交流施設建物は、男山山頂の展望台、天王山中腹の大山崎山荘美術館・旗立松展望台からの景観に対し、周辺に馴染む色彩で、建物ボリュームも遠方の山々の稜線内であり、自然景観にとけ込む施設となっている。

⑤：男山山頂展望台からの景観（フォトモンタージュ写真）

⑥：天王山中腹大山崎山荘美術館からの景観

○眺望点の発掘・整備
・展望塔により、三川合流域や背割堤を一望できる眺望点を整備
・眺望の魅力を示すには高さ２４m程度が必要
・展望塔は“宇治川、木津川”の川面と“背割堤“の桜並木の全景を一望できる地上高さ約２４mの３６０度展望スペースとなる全高約２８mの独立展望塔とする。
・周辺は開けた敷地であり、展望塔は地域のシンボルを担う施設となる。

展望デッキ部１４m時の周辺景観の見え方

展望デッキ部１８m時の周辺景観の見え方

展望デッキ部２４m時の周辺景観の見え方